



環境方針

当社は地球環境問題を経営課題であると認識し、企業理念に基づき「環境方針」を1998年4月に制定しました。当社は、持続的な社会の実現に向け、社会的責務を全うする企業でありたいと考えています。

環境方針(制定:1998年4月 改定:2010年3月)

常に地球環境と事業活動の深い関わりを認識し、「クリーンな商品」を「クリーンな工場、オフィス」から「クリーンな物流、販売店」を通してお客さまにお届けし、社会の持続的な発展を目指します。

また、法規制・地域協定・業界規範の順守はもとより、社会・地域貢献、自主的・継続的な改善、汚染の未然防止に取り組んでいきます。

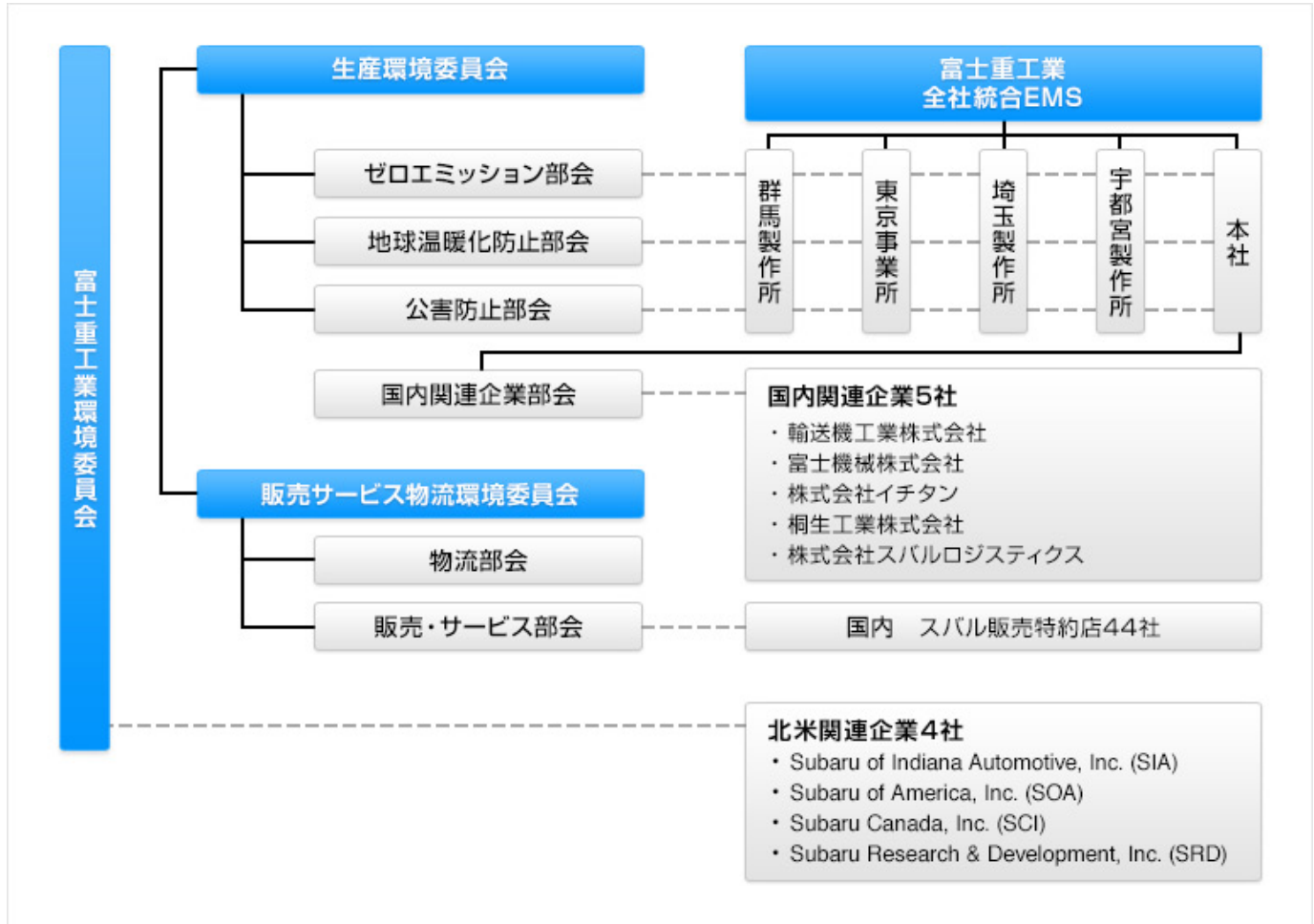
- クリーンな商品…環境にやさしいスバルブランドの商品設計、研究開発
- クリーンな工場…生産工程における環境負荷の低減
- クリーンなオフィス…本来業務を中心とした環境負荷の低減
- クリーンな物流…物流面における環境負荷の低減
- クリーンな販売店…販売店の環境保全活動に対する支援
- 管理面の拡充…社会貢献や情報公開、スバルグループとしての環境活動強化

組織体制

当社は、環境方針や環境ボランタリープランの目標を達成するために、全社統合EMS（環境マネジメントシステム）と環境委員会の2つを軸に、組織横断的に富士重工業グループの環境管理体制を構築しています。

環境担当役員が全社統合EMSの代表と環境委員会の委員長を兼務し、年2回定期的にレビューを実施しています。全体の進捗および取り組みの方向性を総合的にマネジメントすべく、活発に環境保全活動を推進しています。

富士重工業グループの環境管理組織体制（2014年6月現在）



第5次環境ボランタリープラン(2012~2016年度)サマリー

当社は、第5次環境ボランタリープランとして、2012年度から2016年度までの環境保全自主取り組み計画を策定しました。これは、当社環境方針に基づき、常により高い環境保全目標を掲げるとともに、法規制・業界との連携を含めた確かな環境対策を盛り込み、これまで以上にクリーンな商品を、クリーンな工場・オフィスから、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通してお客さまにお届けし、商品で社会に貢献することを目標としています。

当社のみならず、グループ企業の指針として共有し、当社グループとして環境問題の継続的改善に積極的に取り組んでいきます。その取り組み項目について「地球温暖化対策」「資源循環」「公害防止・有害化学物質使用削減」「環境マネジメント」に区分し、紹介します。

第5次環境ボランタリープラン



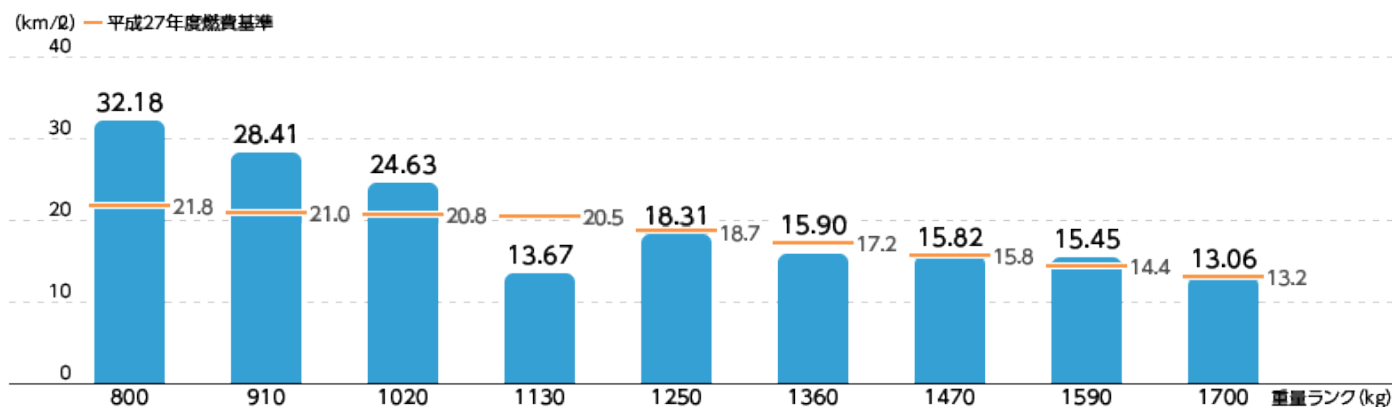
-  [PDF 222KB] [1] 地球温暖化対策
-  [PDF 84KB] [2] 資源循環
-  [PDF 173KB] [3] 公害防止・有害化学物質使用削減
-  [PDF 180KB] [4] 環境マネジメント

環境データハイライト

燃費基準への対応

- 国内：対象9ランク中5ランクで平成27年度燃費基準を達成
- 米国：2013モデルイヤーのCAFE(企業平均燃費)規制およびGHG(グリーンハウスガス)規制を達成

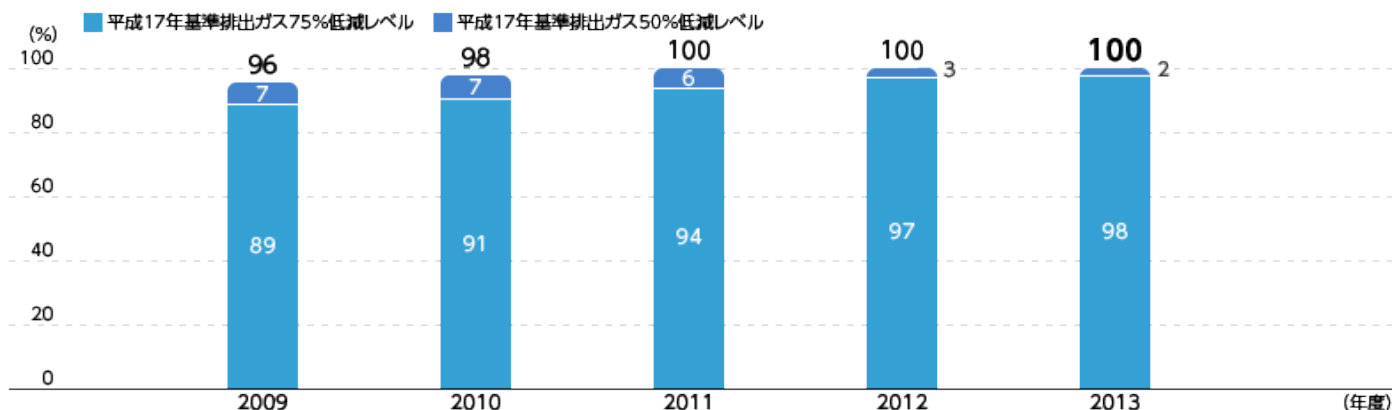
平成27年度燃費基準達成状況



低排出ガス認定車の向上と普及

- 平成17年基準75%低減レベル車の生産台数は98%まで向上
- すべての車両が低排出ガス認定車（平成17年基準50%低減レベル以上）

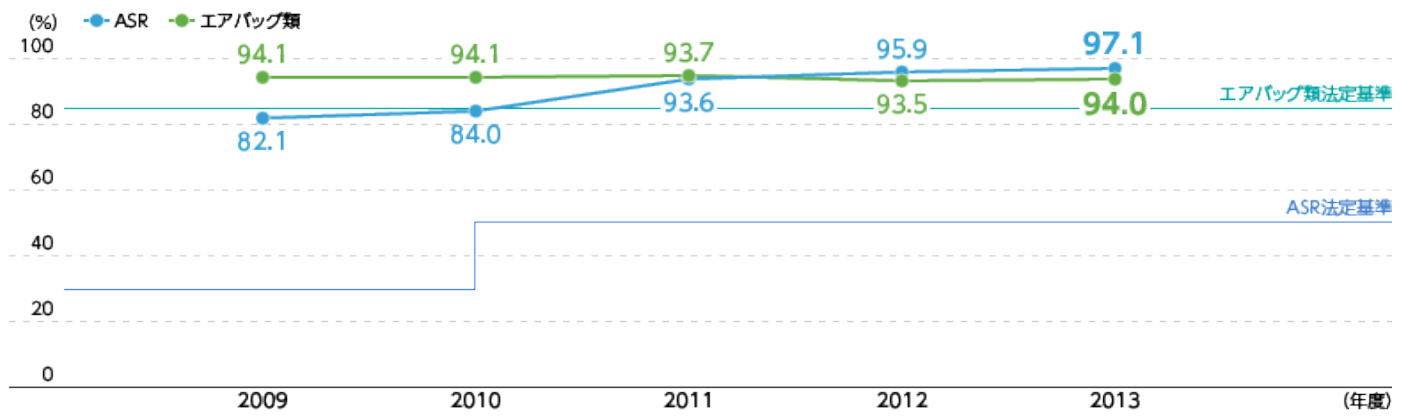
ガソリン乗用車の低排出ガス車比率の推移

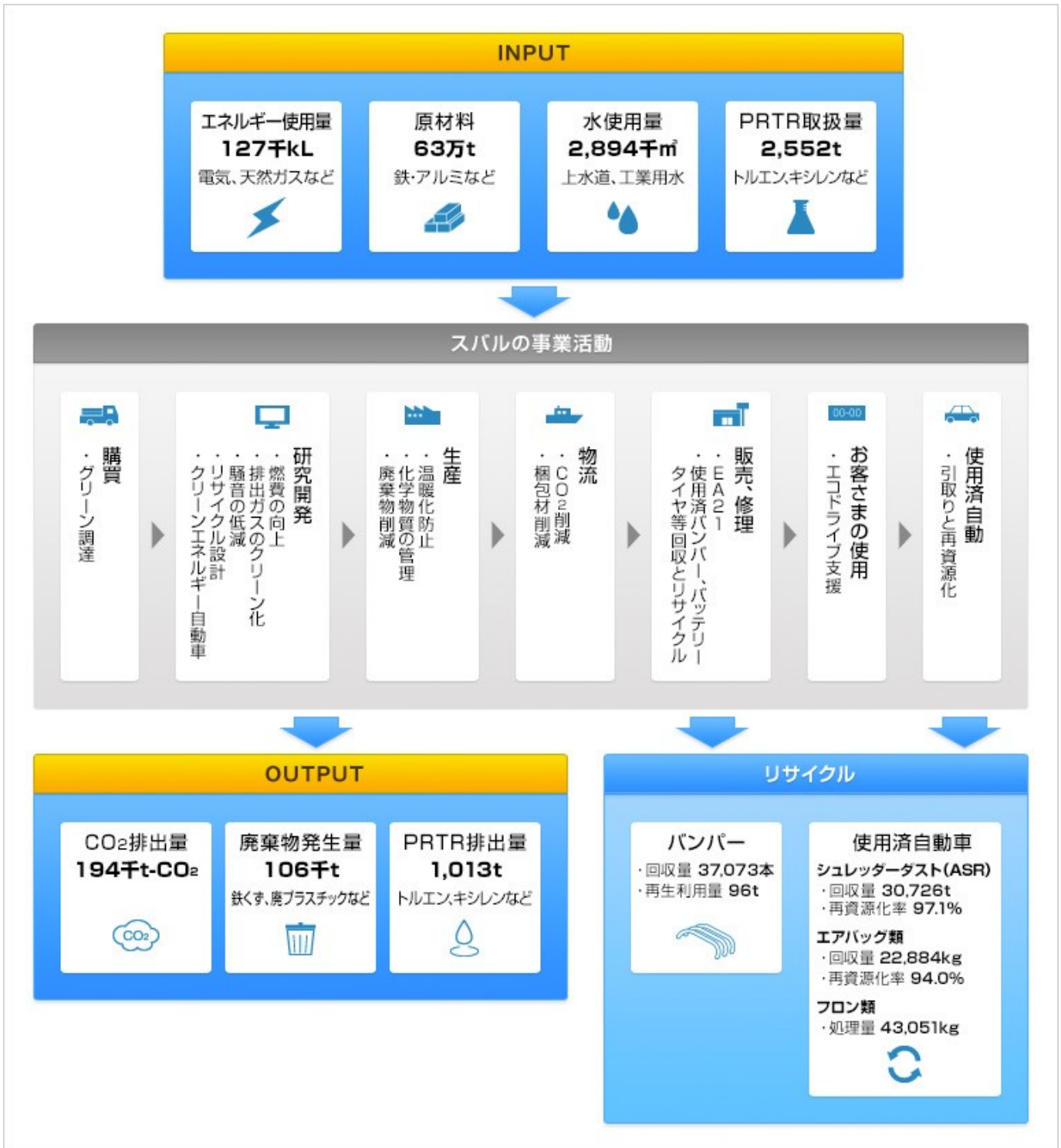


自動車リサイクル

- 「自動車破砕残さ（ASR）」リサイクル率97.1%（2015年度法定基準70%）
- 2011年5月に達成した埋立て処分ゼロの月間記録を継続
- エアバッグ類リサイクル率94.0%を達成（法定基準85%）
- フロン類も引き取った全量を適正に処理

ASR・エアバッグ類の再資源化率実績と法定基準





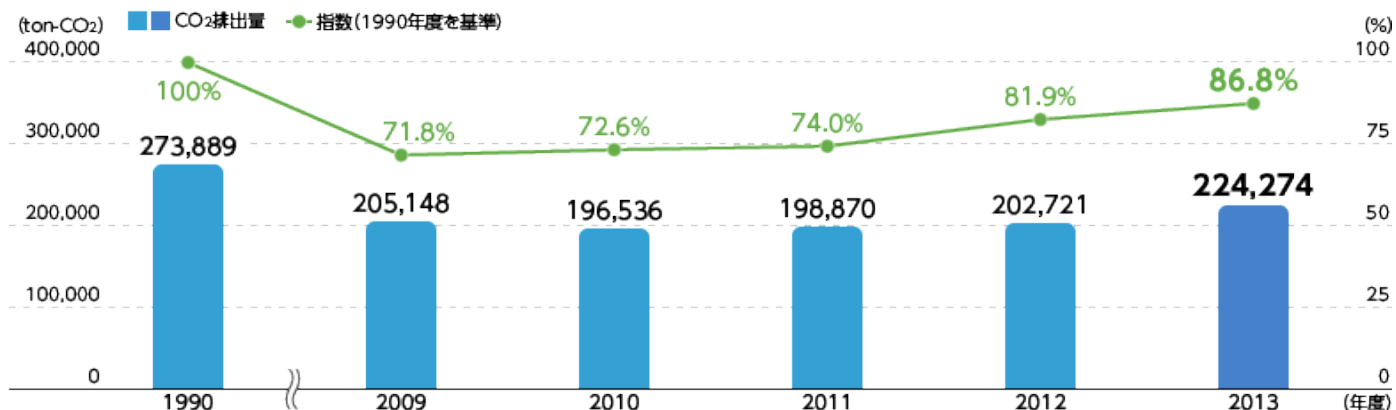
※当社の自動車製造、販売等に関わる主な環境負荷を記載しました。これとは別に、LCAやScope3の算定を行っています。

2013年度の主な環境パフォーマンス

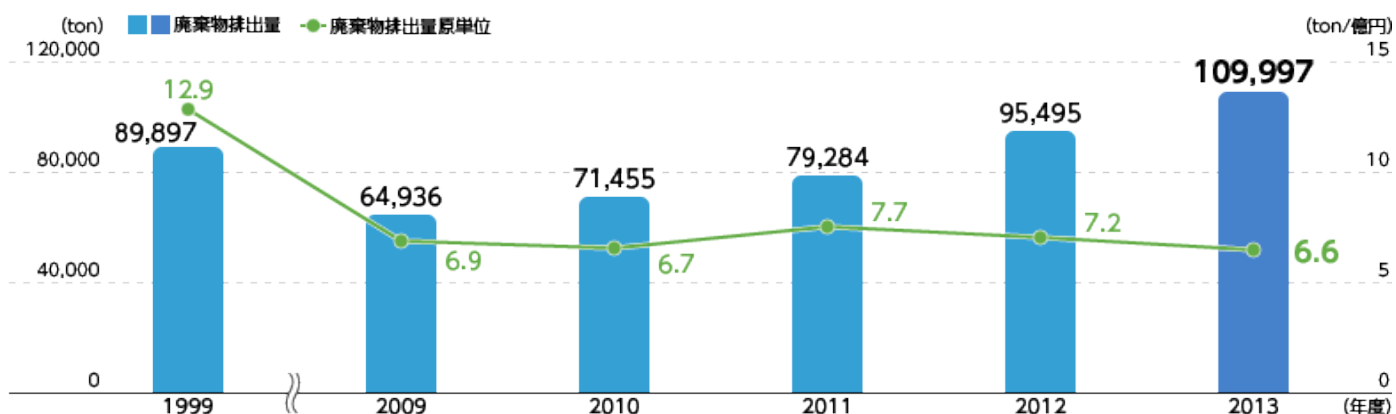
● CO2排出量と廃棄物排出量は操業増により前年度比で増加

※ 集計対象事業所：群馬製作所、東京事業所、埼玉製作所、宇都宮製作所

CO₂排出量



廃棄物排出量(売却金属くずを含む)



PRTR排出量

